

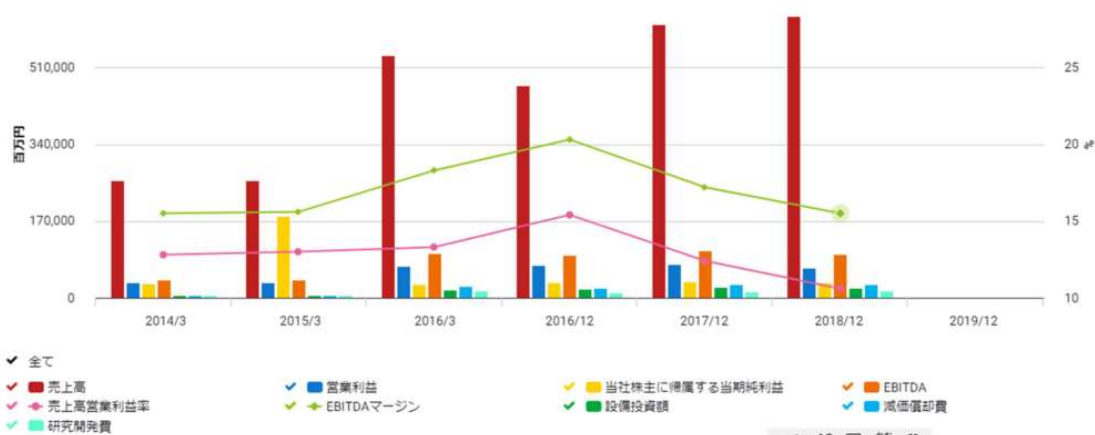
【日本ペイント HD】「業績・財務・ESG データ」チャートジェネレーター機能追加

12月22日

先週の水曜日、12月16日に日本ペイントホールディングス株式会社インベスターリレーション部より掲題のお知らせを受け取りました。チャートジェネレーター機能とは耳慣れない言葉ですが、このお知らせによれば「過年度にわたる主要な業績・財務データを、多様なグラフにカスタマイズして表示することができます」というのがチャートジェネレーター機能ということのようです。

具体的には2014年から2019年にいたる6年分の業績、主要財務、セグメント、ESGに関して公開しているデータをどのようにもグラフで表せる機能ということになります。業績データは以下のURLですが、これをあけると以下のようなグラフが出てきます。

<https://www.nipponpaint-holdings.com/ir/results/account>



これはピンとこないかもしれませんが、ここでは、連結損益計算書の主要データである売上高、営業利益、当社株主に帰属する当期純利益、EBITDA、売上高営業利益率、EBITDA マージン、設備投資額、減価償却費、研究開発費がすべてグラフ化されています。下に並んでいる項目のチェックボックスには現在すべてチェックが入っていますので、すべての項目が表示されていますが、チェックをはずせば自分の見たい項目だけのグラフにすることができます。（このグラフで2019年度が表示されていないのはここまでが日本会計基準で2019年度からはIFRS基準に切り替わったためです。2019年度はIFRS基準で表示されず）またグラフと表は一瞬で切り替えることができます。

業績データにはこのほか、連結財政状態計算書、連結キャッシュフロー計算書のデータがあり、さらに主要財務データ、セグメントデータ、ESGデータと多岐にわたるデータが、上の連結損益計算書と同様にグラフ化して見るができるという仕掛けです。具体的にどのような項目が見ることができるのかを下に示します。

業績データ		
連結損益計算書	連結財務状態計算書	連結キャッシュフロー計算書
売上高	資産合計	営業活動によるキャッシュフロー
営業利益	負債合計	投資活動によるキャッシュフロー
EBITDA	当社株主資本	財務活動によるキャッシュフロー
当社株主帰属当期純利益	ネット・デット	フリー・キャッシュ・フロー
売上高営業利益率	有利子負債額	
EBITDAマージン	D/Eレシオ	
設備投資額	ネットD/Eレシオ	
研究開発費		
減価償却費		

業績データの項目

主要財務データ		
主要財務指標①	主要財務指標②	一株あたり情報
自己資本比率 (ROE)	自己資本比率	1株当たり当社株主に帰属する 当期純利益 (EPS)
総資産利益率 (ROA)	流動比率	1株あたり純資産 (BPS)
投下資本利益率 (ROIC)	当座比率	1株あたり年間配当金
ネットデット/EBITDA	現預金比率	IFRS配当性向
株主総利回り (TSR)	固定比率	
株価収益率 (PER)	インタレスト・カバーレージ・レシオ	
株価純試算倍率 (PBR)	総資産回転率	
	自己資本回転率	
	売上債権回転率	
	仕入れ債務回転率	
	棚卸資産回転率	
	固定資産回転率	

主要財務データの項目

セグメントデータ		
(項目)	地域別	事業別
売上高 (日本基準)	日本	自動車用事業
売上収益 (IFRS)	アジア	汎用 (建築・重防食)事業
営業利益 (IFRS)	米州	工業用事業
営業利益 (日本基準)	その他	ファインケミカル事業
営業利益率 (日本基準)		その他(船舶・自動車補修等)

セグメントデータの項目

ESG		
環境負荷軽減	従業員数	労働安全衛生
燃料によるCO2発生量	単体	国内休業災害度数率（社内）
電力によるCO2発生量	日本	同 製造業平均
エネルギー使用量	アジア	同 化学工業平均
廃棄物など発生量	オセアニア	同 日化協平均
産業廃棄物のリサイクル率	その他	国内労働災害発生件数 （重大、休業、不休）
鉛化合物使用量	連結合計	労働災害度数率
漏えい事故件数		雇用形態別災害発生件数
VOC排出量		海外休業災害度数率
NOX発生量		海外労働災害発生件数 （重大、休業、不休）
SOX発生量		
ばいじん排出量		
排水量		
COD排出量		
全りん排出量		
全窒素排出量		
水利用量 （上水、工業用水、地下水）		
		ガバナンス
		取締役人数
		社外取締役比率

ESG データの項目

非常に多岐にわたるデータを自在に見ることができるようになっていきます。定期的に発行されている統合報告書や株主対象の経営状況説明会で提供されるデータのほとんどがカバーされているのではないかと考えるほどです。

中でも ESG データは環境関連のデータを公開するもので、欧米の企業では当たり前ですが、日本の企業では、ホームページで簡単に見れるようになっていく企業は必ずしも多くはないのではないかと思います。

こうしたデータの公開は、同社の自信と覚悟の現れと感じています。日本の大手塗料メーカーの中には、いまだにホームページに有価証券報告書を掲載していない会社もあるようですが、こうした積極的な情報開示は、大げさに言えば業界への信頼性向上にもつながるものであるとして評価したいと思います。